

2016年4月26日

発信文書

協同総合研究所 25周年記念 「協同(組合)の原点を訪ねる」研究会②

演題 「B面 私の戦中戦後思想史」

報告 石見 尚(協同社会研究会主宰 協同総研顧問)

日 時 5月25日(水) 午後2時～5時

会 場 協同総合研究所の上階

東京都豊島区東池袋 1-44-3 池袋ISP タマビル 8F C会議室

主 催 協同総合研究所

資料代 1000円(会員、学生、障がい者 500円)

これまで「フォーマルな社会とインフォーマルな社会の間をさまよい歩きながら考えてきた」という石見先生。91歳になられても、おひとりでかくしゃくと生活しておられた先生が久々に登場します。4月にご自宅を訪問して「確認済み」。

石見先生は、ケインズ、ハイエク、シュンペーター、コール等々一九三〇年代理論と現代協同組合理論を念頭に語られます。労協連の運動が世界の社会主義理論との論争においてどのようなものであったか、またソ連型と西欧マルクス主義(フランクフルト学派)の違いとは、また革命理論ではどんな位置関係にあったのかなど、現代的な問題に引きつけて語っておきたいとのことでした。

かなり硬派な研究会イメージではありますが、ご本人が指定されたタイトル「B面」となっておりますので、お気軽にご参加、お立ち寄りください。

*報告者略歴 1925年生まれ。和歌山県粉河の出身。1950年東京大学農学部卒。農協、国会図書館調査局課長、(財)農村開発企画委員会常務理事、東京工業大学大学院講師(非常勤)を経て、日本ルネッサンス研究所設立。日本ニーム協会顧問、KINSPARC(インドのNGO)アドバイザー。農学博士

**主な著書 『日本型協同社会論事始め』『日本型ワーカーズ・ユープの社会史』『第四世代の協同組合論』『都市に村をつくる』『農協』『協同組合論の系譜』『協同社会の復権』『日本ルネッサンス史論』ほか多数